Sobal™ corporation

JPX
東証JASDAQ上場
証券コード 2186

株主通信 2017

2016年3月1日 － 2017年2月28日（第35期）

社是
Company creed

技術で社会に貢献する
We contribute to the society
by providing technical services.

目次
Contents

4-5. 代表メッセージ
6. ソーバルグループ
7. 事業案内
8-9. 2017年2月期の総括
10-11. 2018年2月期の見通し
12. 業績ハイライト
13. 財務諸表
14. 株主優待／配当について
15. 株主情報
16. 会社情報／株式手続き

代表メッセージ

企業にとって、最大の資源は人材です。

時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

企業にとって、最大の資源は人材です。

私どもは、高い意識と技術をもつ人材が、充実した環境で働くことが価値あるテクノロジーを生み出す近道だと考えております。そのチャンスを拡大するため、ソーバルでは仕事とプライベートのバランスを大切にする社風を築いてまいりました。

加えて、企業活動に関わる全ての方の満足が、企業価値の向上に繋がるとも考えております。

長年、人材開発と教育に投資を続け、IT分野の技術革新に絶えず挑戦し続けてまいりました。その結果、高い技術力と経験豊富な人材を合わせ持つ、国内有数の独立系システム開発企業と、お客様からも高いご評価をいただいております。

開発分野は、コンシューマ向けの製品開発を中心に、オフィス機器、産業用装置の開発まで多岐に渡ります。対応範囲は組み込み用ソフトウエア開発やLSI、周辺回路設計に留まらず、製品同梱アプリケーション・ドライバ開発や Web ポータルサイト・業務系システム開発等、幅広い分野を対象に事業を展開しております。

昨今では、さらに技術の幅を広げ、AI（人工知能）やクラウドサービス等の新しい分野についても意欲的に取り組んでおります。また主体のエンジニアリング事業をより充実させつつ、ソーバルのさらなる発展に寄与する取り組みに力を入れております。

2017年4月には、株式会社ユビキタスより IoT プラットフォーム事業を譲受けいたしました。ソーバルの“ハードウエアからソフトウエアまで一気通貫で対応できる強み”を最大限発揮し、新たな付加価値を創出するソリューションを提供してまいります。IoT プラットフォームの提供や付随する開発案件を取り込み、中長期的な視点で多角的な収益構造を構築してまいります。

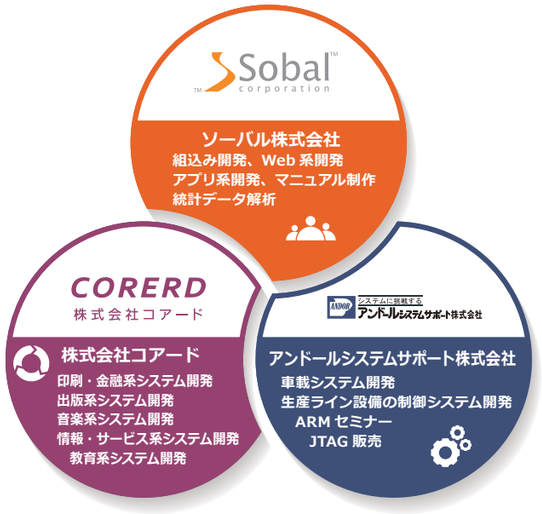
1983年創業以来の、「技術で社会に貢献する」というソーバルの理念は、今後も変わらず貫いてまいります。社会との結びつきとして、技術だけではなく様々なボランティア活動など、社会に愛され、貢献できる姿を描き、成長してまいります。ソーバルはすべてのステークホルダーの皆様から、より一層の信頼の獲得と、期待に応えるべく、全社一丸となって邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とより一層のご鞭撻を賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ソーバル株式会社　代表取締役会長

推津順一

ソーバルグループは、ソーバル株式会社及び子会社２社（株式会社コアード、アンドールシステムサポート株式会社）で構成されております。主な事業として、ファームウエア、ソフトウエア並びにハードウエアの開発及び評価など多岐に渡るソリューションを提供しております。



CORERD
株式会社コアード

社名	株式会社コアード
本社所在地	東京都港区芝浦4-16-23
設立	昭和62年2月
資本金	2,000万円
事業内容	コンピュータソフトウェアの開発 コンピュータシステムのコンサルティング

システムに挑戦する
アンドールシステムサポート株式会社

社名	アンドールシステムサポート株式会社
本社所在地	東京都品川区南品川2-15-8
設立	昭和44年11月
資本金	9,900万円
事業内容	ハードウエア設計･開発･製造 ソフトウエア等の受託開発

３４年にわたる豊富な開発実績

ソーバルグループは、ソフトウエアの開発に長年にわたり取り組んでまいりました。特に、国内外でトップレベルのお客様のニーズに真摯に応えることで、経験豊かな開発技術者の育成と幅広くかつ専門的なソリューションを培ってまいりました。現在は、国内でも有数の「組込み開発」の独立系企業として高い評価をいただくとともに、「電子回路設計」「アプリケーション開発」「スマートデバイスアプリケーション開発」「WEB・クラウド開発」「マニュアル制作」「品質評価」など多岐にわたるソリューションを提供しております。さらに、これら IT ソリューションの提供を主たる事業としつつ、独自の製品開発（スマホアプリ開発、SNS 構築システム等）にも着手しております。

2017年2月期の総括

経営成績について

当社グループは、積極的な提案活動を通じて、既存取引先との一層強固な信頼関係を築くとともに、新規の顧客開拓にも成果を上げることができました。また、今後の IT 社会を見据えて、AI・自動運転をはじめとする新しい技術の習得に努め、収益基盤の多角化と事業領域の拡大を推し進めてまいりました。グループ子会社のアンドールシステムサポート社においては、収益化に向けた構造改革が結実し、黒字化を達成することができました。同時に、ソーバルにおいては、業務効率を高めて収益率の向上を図るために、戦略的に受託開発比率を引き上げてまいりました。こうした取組みを推し進める中で、新技術に対応できる技術者を優先的に配置するエンジニア配置転換コストの上昇や、新規顧客対応での一部不採算プロジェクトの発生により、一時的な減益となりました。

積極的な新規顧客開拓 →
- AI・自動運転技術等の新技術を習得 ⬆
- 新技術に対応できる技術者を優先的に配置することによるコスト増 ⬇

子会社の構造改革 →
- 収益化の実現、売上・利益ともに貢献 ⬆

戦略的な受託開発比率の引き上げ →
- 受注・売上増 ⬆
- 新規顧客対応で一部不採算プロジェクトが発生し利益率減 ⬇

	2016年2月期	2017年2月期	前年同期増減比
売上高（百万円）	7,717	7,914	2.6% ⬆
営業利益（百万円）	610	493	△19.2% ⬇
経常利益（百万円）	621	500	△19.5% ⬇
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	391	347	△11.2% ⬇

取引先の状況

取引先別売上高構成比は、引き続きキヤノングループが 52.2%で最大となっております。ソニーグループは、売上高・比率ともに拡大しており、放送機器やホームネットワークが好調なことに加え、新規分野の開発にも積極的に参画しております。富士通グループは、売上高・比率ともに減少しておりますが、これは消防無線システムの開発が前期に集中した反動であり、主軸の業務系システム開発案件は拡大しております。また、その他取引先の比率が伸長しておりますが、これは、既存取引先への営業や提案を強化したことに加え、日立グループなど新規顧客の開拓が大きく寄与しております。

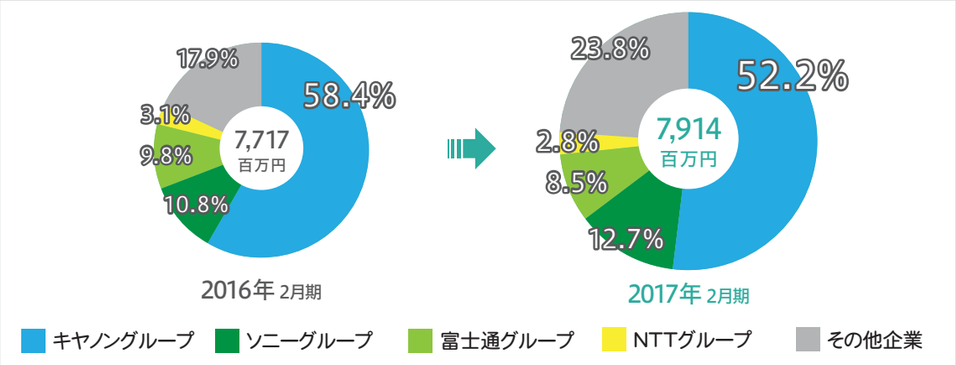
- **キヤノングループ**：売上高・比率 ともに 減少
- **ソニーグループ**：売上高・比率 ともに 増加
- **富士通グループ**：売上高・比率 ともに 微減
- **その他**：新規・既存 ともに 大幅増

新規取引先・2017年2月期実績（抜粋）

- A社（電気機器メーカ）：26百万円
- B社（教育サービス）：17百万円
- C社（情報・通信）：9百万円
- 新規取引先全体：342百万円

顧客獲得を優先し、売上高の拡大に寄与
開拓後は取引のボリュームと付加価値案件を追求

取引先別売上高構成比（%）



2018年2月期の見通し

2018年2月期の展望

当社グループでは、既存の事業はもとより、AI・自動運転などの新規技術や 2017年4月1日付で譲受けたIoTプラットフォーム事業を活用して、業務分野並びに顧客層の拡大に努め、より強固で柔軟な経営基盤を築けるよう努めてまいります。また、こうした戦略的な取組みにおいては、優秀な技術者の確保や育成が重要となりますので、特にプロジェクトリーダーやプロジェクトマネージャーの育成には継続して尽力する必要があると考えております。

プロジェクトリーダー（PL）：
プロジェクトのリーダーとして、スケジュール・仕様・メンバー・品質などを管理します。

プロジェクトマネージャー（PM）：
複数のプロジェクトの総責任者として、プロジェクトの提案・見積・契約から納品までを管理・統括します。

人材獲得・PL／PM育成戦略

新卒採用の強化
エンジニア育成

- 質を落とさない人材採用 魅力的なインターンシップ
- 研修体制、福利厚生、ワークライフバランスの充実
- ローテーションによるスキル多角化・技術力の蓄積
- 受託開発案件の拡大でPL／PM層を強化

販路拡大・収益多角化戦略

新規開拓・業務提携・M&A
重点ターゲット

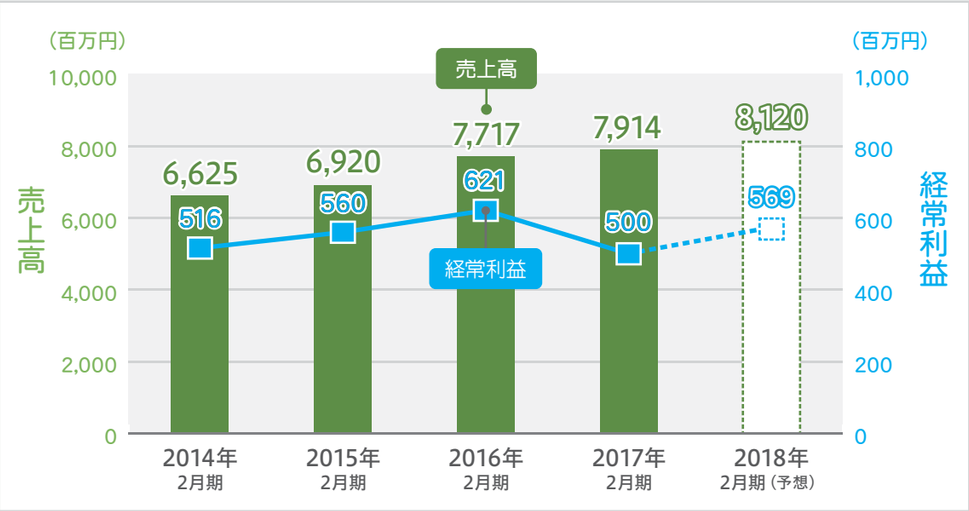
トピックス

- **自動車分野**：日立グループとの取引が順調に拡大傾向
- **IoT分野**：株式会社ユビキタスから譲受

2018年2月期の業績予想（前期比増減率）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
8,120百万円（2.6%↑）	570百万円（15.5%↑）	569百万円（13.8%↑）	381百万円（9.6%↑）

売上高、経常利益の推移（予想）

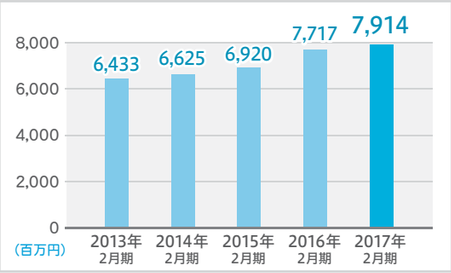


売上高については、主要顧客の取引ボリュームを維持し安定性を確保しつつ、積極的な営業活動により受注を拡大してまいります。また、新規技術・新規業種の顧客開拓に注力し、販路の拡大と収益構造の多角化を進めてまいります。

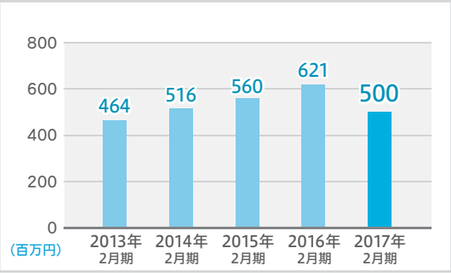
利益面に関しては、組織改編によりエンジニアの機動性を高め、情報共有を徹底しコストを抑え、利益水準を向上してまいります。さらに、受託開発案件を拡大することにより、プロジェクトマネージャーの育成を促し、プロジェクト管理フローの再構築を同時並行で推進してまいります。

業績ハイライト

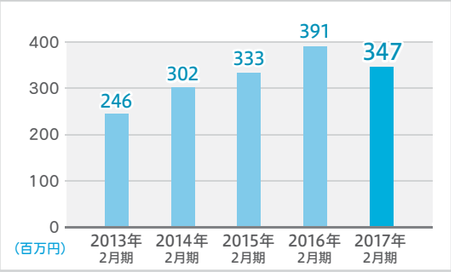
売上高（連結）



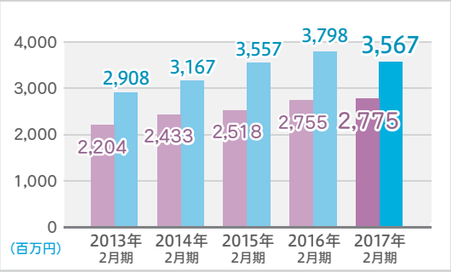
経常利益（連結）



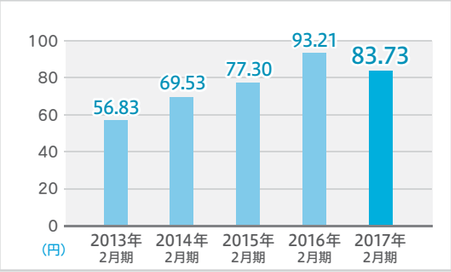
親会社株主に帰属する当期純利益（連結）



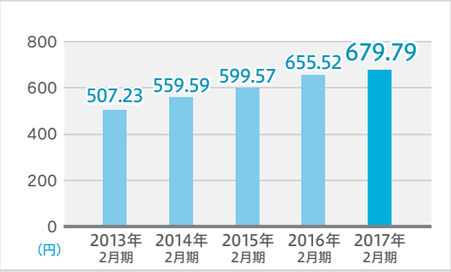
純資産／総資産（連結）



一株当たり当期純利益（連結）



一株当たり純資産（連結）



財務諸表

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

科目	2016年 2月期	2017年 2月期	科目	2016年 2月期	2017年 2月期
（資産の部）			（負債の部）		
流動資産	2,933	2,762	流動負債	848	597
固定資産	865	805	固定負債	194	194
			負債合計	1,043	792
			（純資産の部）		
			株主資本	2,755	2,775
			純資産合計	2,755	2,775
資産合計	3,798	3,567	負債純資産合計	3,798	3,567

損益計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	2016年 2月期	2017年 2月期
売上高	7,717	7,914
売上原価	6,102	6,419
売上総利益	1,614	1,494
販売費及び一般管理費	1,003	1,000
営業利益	610	493
営業外収益	14	26
営業外費用	3	19
経常利益	621	500
特別利益	0	–
税金等調整前当期純利益	621	500
法人税等合計	229	152
当期純利益	391	347
親会社株主に帰属する当期純利益	391	347

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	2016年 2月期	2017年 2月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	145	219
投資活動によるキャッシュ・フロー	152	94
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 577	△ 327
現金及び現金同等物の増減額	△ 279	△ 13
現金及び現金同等物の期首残高	1,683	1,403
現金及び現金同等物の期末残高	1,403	1,390

株主優待について（毎年8月31日基準日）

8月31日現在で1単元（100株）以上の株式を保有する株主様に対し、株主優待制度としてQUOカードを優待ギフトとして贈呈いたしました。

優待内容	1単元（100株）以上 5単元（500株）未満 の 株式を保有する株主様に対し、 500円相当のQUOカードを贈呈
	5単元（500株）以上 の 株式を保有する株主様に対し、 2,000円相当のQUOカードを贈呈
実施回数	年1回
発送方法	中間決算関係書類の中に同梱

配当について

当社グループは、株主の皆様への長期的利益還元を経営課題の一つとして考え、将来可能性がある企業買収や設備投資、研究開発等のための内部留保の充実を図るとともに、安定的かつ継続的な利益還元策の実施を目指すことを基本方針としております。

このような方針のもと、2017年 2月期の期末配当金は、1株当たり 21円とさせていただく予定です。2018年 2月期につきましては、45円（中間配当 22円、期末配当 23円）を予定しております。

配当金推移

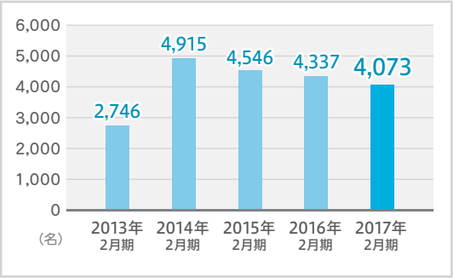
（単位:円）	一株当たり配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2018年 2月期（予想）	22円	23円	45円	48.2%
2017年 2月期	21円	21円	42円	50.2%
2016年 2月期	19円	20円	39円	41.8%
2015年 2月期	13円	18円	31円	40.1%
2014年 2月期	8円	13円	21円	30.2%

株式基本情報

（2017年2月28日現在）

証券コード	2186
上場市場	株式会社東京証券取引所 ジャスダック市場
事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
期末配当支払株主確定日	2月末日
中間配当支払株主確定日	8月31日
株主総会	毎年5月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
単元株式数	100株
発行可能株式総数	14,800,000株
発行済株式総数	4,204,600株
株主数	4,073名
公告方法	電子公告 （事故その他やむを得ない事由が生じ、電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に掲載します）

株主数推移



株式分布状況

（2017年2月28日現在）

◇ 所有者別情報

政府及び地方公共団体	0.00%
金融機関	0.09%
金融商品取引業者	1.71%
その他の法人	41.70%
外国法人等個人以外	0.13%
外国法人等個人	0.00%
個人・その他	53.46%
自己名義株式	2.91%

◇ 所有株式数別情報

10単元未満	92.78%
50単元未満	6.55%
100単元未満	0.24%
500単元未満	0.29%
1,000単元未満	0.00%
1,000単元以上	0.14%

大株主

（2017年2月28日現在）

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
エバーコア株式会社	1,740,000	41.38
ソーバル従業員持株会	546,400	12.99
川下 奈々	188,720	4.48
推津 敦	188,720	4.48
和田 昌彦	30,000	0.71
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	27,400	0.65
町田 泰則	21,500	0.51
推津 順一	20,040	0.47
推津 幸子	20,020	0.47
蔵方 肇	20,000	0.47

会社情報／株式手続き

会社概要

（2017年2月28日現在）

社名	ソーバル株式会社
設立	1983年1月
本社所在地	〒141-0001 東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル
資本金	214百万円
事業内容	エンジニアリング事業 ・ソフトウエア・ハードウエアの設計開発 ・第三者検証 ・マニュアル制作
従業員数	連結：1,015名　単体：904名
ホームページアドレス	http://www.sobal.co.jp/

株式手続き

住所・氏名・振込口座などの変更について

ご住所の変更や配当金の受取り方法等、株式に関する手続きのお問合せ先は下記をご参照ください。

一般口座をご利用の株主様	お取引先の証券会社までお問合せください。
特別口座をご利用の株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社（証券代行部） 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話番号：0120-232-711 受付時間：9:00～17:00（土日祝休み） URL：http://www.tr.mufg.jp/daikou/

役員紹介

（2017年5月24日現在）

取　締　役	
代表取締役会長	推津　順一
代表取締役副会長兼 CEO	推津　敦
取締役社長	稲葉　勝巳
専務取締役	東谷　正雄
専務取締役	舊橋　学
専務取締役	河原　浩一
取締役	山林　敬

監　査　役	
常勤監査役	伊藤　光男
監査役（公認会計士）	森　正人
監査役（弁護士）	小野寺　眞美

執　行　役　員	
専務執行役員	大久保　仁美
専務執行役員	島谷　裕一
執行役員	西岡　建太
執行役員	杉山　義雄

IRに関するお問合せ先

ソーバル株式会社
IR担当窓口
〒141-0001　東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル
TEL：03-6409-6138（受付時間 平日 9:00～17:00）

IRサイトアドレス　|　http://www.sobal.co.jp/ir/

このパンフレット内の文章、写真等の著作物の全部または一部を弊社の許可なく複製、使用することを一切禁じます。パンフレットの内容は2017年5月現在のものです。240517PR187-IRJ09